

部活動地域移行に関するアンケート調査の結果概要について（報告）

1. 調査概要

(1) 調査の目的

本市の教職員・児童生徒（小学校6年生・中学校全学年）及びその保護者の部活動に係る意識や実態、部活動地域移行に対する考え等を把握し、本市の地域移行の検討資料とする。

(2) 調査の実施時期

令和4年11月

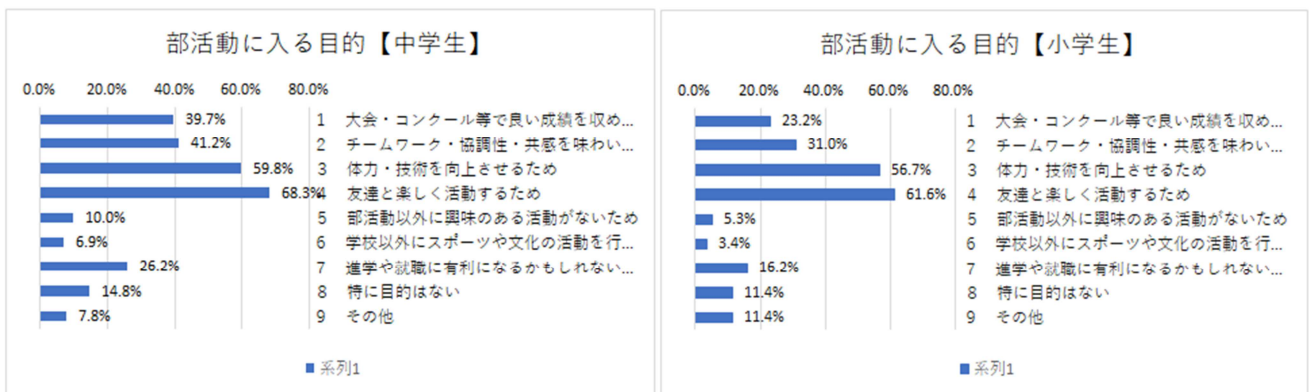
(3) 回答者数

- ①教職員（小学校366名、中学校194名、合計560名）
- ②児童生徒（6年生769名、中学生2,082名、合計2,851名）
- ③保護者（1,136名、合計1,136名）

2. 結果概要

(1) 児童生徒の部活動に関する意識等

中学生の部活動の加入状況は、8割以上が部活動に加入しており、現時点で小学生の50.8%が運動部に、14.4%が文化部に入部したいと回答している（所属しないと回答した児童は2.2%）。部活動に入る目的上位は小中学校とも「友達と楽しく活動する」「体力・技術の向上」である。



(2) 教職員の部活動に関する意識等

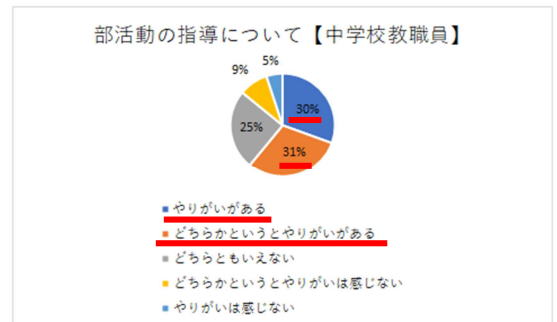
中学校で部活動を担当している教職員は、回答者の77.3%（運動部62.4%、文化部14.4%）。

①部活動の指導に対する意識

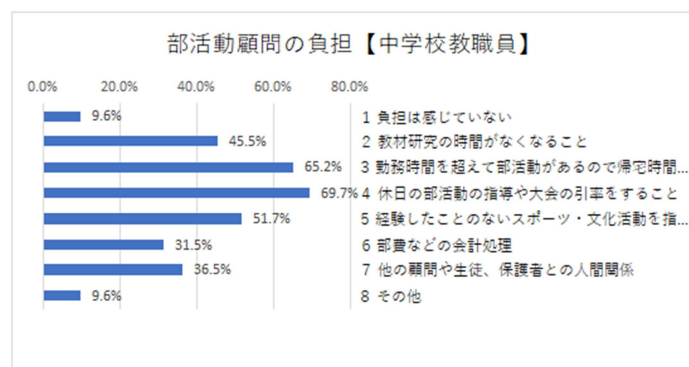
部活動の指導に対して「やりがいがある」など肯定的に回答した割合は61.0%あった。一方で、「やりがいは感じない」など否定的な回答も14.1%あり、負担感を持つ教師もいると推察される。

②部活動の負担について

中学校教職員が最も負担に感じているのは「休日の部活動の指導や大会の引率」（69.7%）で、次いで「部活動があるので帰宅時間が遅くなること」（65.2%）の割合が高い。部活動の在り方を変える必要があるかについて、「とてもそう思う」「まあそう思う」という考えが87.1%となり、多くの教職員



が部活動の現状を変えてほしいと考えている。
 一方で、中学校での「部活動改革（部活動の在り方を改善する取組）」の進捗についての受け止めは、「校内で課題に上がることはあるが、具体的には進んでいない」が最多（46.9%）であり部活動の在り方を改善する取組を具体化することが必要。



(3) 「部活動の地域移行」に関する意識等

① 「地域移行」についての意識

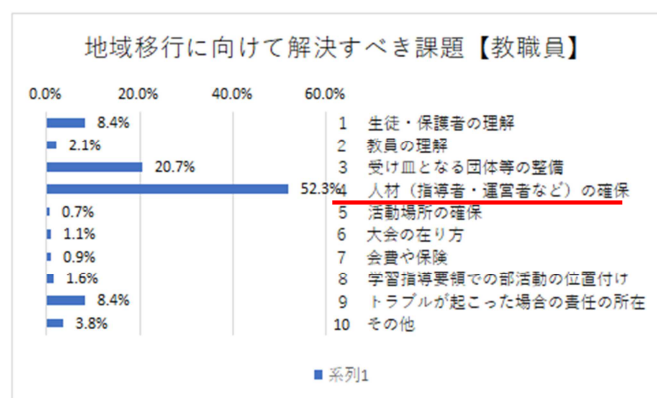
小中学生の意識は、「家の近くの活動なら参加したい（小 28.1%）」「求める条件に合えば参加したい（中 21.2%）」保護者は「通学している学校または学校の近くの施設でなら活動させたい（40.8%）」の回答が最多。

教職員の意識は、「まずは休日の部活動から取り組むべき」が小学校 53.0%、中学校 36.1%となり、中学校では、「平日も同時に地域へ移行していくべきである（39.7%）」が最多。

② 「地域移行」に向けて解決すべき最大の課題

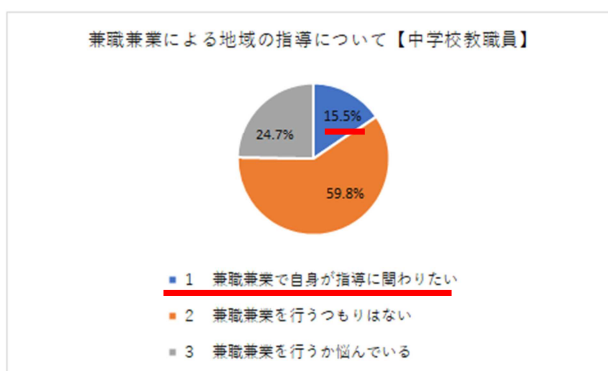
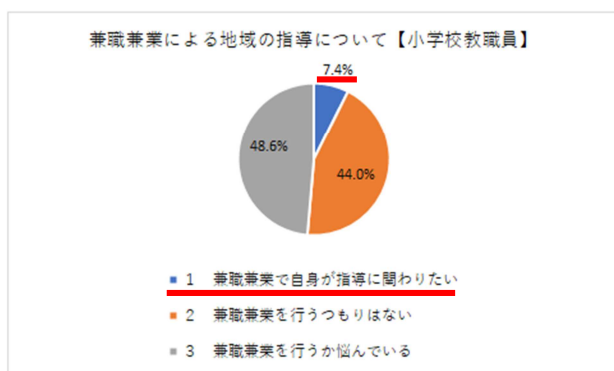
「地域移行」に向けて、**解決すべき最も大きな課題**として、「**人材（指導者・活動を運営する人など）の確保**」が小中学校ともに**最多**であった。

次いで、「受け皿となる団体等の整備」「生徒・保護者の理解」が小中学校ともに多かった。



③ 「地域移行」された場合の指導への関わり

兼職兼業の許可を得るなどして、指導に「関わりたい」教職員は、小 7.4%、中 15.5%であり、「関わりたくない」は小 44.0%、中 59.8%で、現状では、兼職兼業に積極的な教職員は少ない。



3. 今後の方向性について

- ① 土日の部活動の実施の在り方や中学校の部活動数の削減、合同部活動の実施など、**学校・地域とともに部活動の在り方を見直し**ていく（その際には、部活動指導員の配置拡充も検討が必要）。
- ② 受け皿が比較的充実している **一部種目について、地域移行の方策を検討していく予定。**